

ワールドカフェの開催と
「2022年度版日本語教育の樹形図」作成について
—ツールとしての活用に向けて—

2022年12月25日



ワールドカフェの開催と「2022 年度版日本語教育の樹形図」作成について —ツールとしての活用に向けて—

1. ワールドカフェ開催と樹形図の作成趣旨

公益社団法人日本語教育学会（以下「本学会」）では、調査研究推進委員会の企画・運営により 2017 年から 2021 年まで 4 回にわたり¹、ワールドカフェを開催しました。その目的は、(1)日本語教育関連活動の輪郭を描くための資料を集めること、(2)参加者が、個々の研究テーマ、課題、活動領域が他者のそれとどのように関連し、全体の中でどこに位置づけられるのかを考えることです。

上記の目的を達成するためのツールとして用いられてきたのが、「樹形図」です。樹形図は、日本語教育の研究・実践領域全体の俯瞰的輪郭イメージを描くことを目指し、2017 年 3 月に公開されました。次節からは、樹形図とワールドカフェで行った活動の説明をします。

1.1 樹形図

樹形図の作成と活用の提案は、「公益社団法人日本語教育学会理念体系—使命・学会像・全体目標・2015-2019 年度事業計画」（以下、「学会理念体系」）においてなされました。「2022 年度版日本語教育の樹形図」は、学会理念体系で示された作成目的と活用方針を踏襲したものです。以下では、学会理念体系の記述に基づいて、樹形図の説明をします。樹形図の構成は 2020 年度に公開された[樹形図](#)を参照ください。

樹形図には、大地に大きく張った根、太い幹、太い枝、細い枝、小枝や葉・花・果実の 5 つが描かれています。根を大きく張った大地は「日本語教育学と各学問領域や社会」を表し、太い幹は、日本語教育学の研究・実践領域を束ねる「学術研究・教育実践・情報交流」を表しています。そして、太い枝は、学術研究・教育実践・情報交流の「包括的大項目」（学会として設定する「研究課題」）を表し、細い枝は、学術研究・実践領域の「中項目」を、小枝や葉・花・果実は、学術研究・実践領域の「小項目」を表しています。太い枝、細い枝、小枝や葉・花・果実は、課題の大きさや複合性、具体性が異なるものの、何れも「学会員個々の研究テーマ・領域・実践的活動」を表しています。

この樹形図は、学会員個々の研究テーマ・領域・実践的活動が、いかにして豊かな社会の創造に関わるのかを示しています。根を大きく張った大地、すなわち、社会から吸収された様々な学術的知見や社会的ニーズは、日本語教育学の研究・実践領域を束ねる三本の柱（学術研究・教育実践・情報交流）へと吸い上げられます。吸い上げられた学術的知見や社会的ニーズは、研究課題に応じて太い枝、細い枝へと運ばれ、個々の研究テーマ・領

¹ 2017 年 7 月 名古屋工業大学、2018 年 10 月 文化外国語専門学校、2019 年 7 月 沖縄科学技術大学院大学、2021 年 3 月 オンライン。

域・実践的活動となります。そこで得られた成果、すなわち、葉や花、豊かに実った果実は、やがて大地である社会へと還元され、豊かな土壌を形成し、循環していきます。樹形図は、日本語教育の学術研究・教育実践が、根を下ろす社会から多様な知見を吸収し、多様なニーズを汲み上げ、多様な要請に応じようとすることで成り立つことを表しています。

1.2 ワールドカフェ

毎回のワールドカフェではテーマが設定されます。当日は、自身の活動領域や関心に合わせて参加者が集まり、グループに分かれて話し合いをします。そのグループを「島」と呼びます。「島」での話し合いで出てきたキーワードや文を付箋に書き、その後、他の島へ移動し、各島で話し合われたことを共有します。2017年、2018年に行われたワールドカフェでは、各島で話し合われたことを共有した後で、参加者は自分の島に戻り、付箋に書いたキーワードや文を樹形図の中に位置づけていくという活動をしました。調査研究推進委員会（以下「本委員会」）では、参加者がこのようにして位置づけた自らの実践とその研究に関するテーマや課題、活動を記録として残し、樹形図に書き入れました。このように樹形図には、日本語教育実践を行う者それぞれの活動領域における、活動内容、関心事、課題、研究等が細部として書き込まれ、可視化され、日本語教育実践の広がりを示すものとなっています（2020年度に公開された樹形図は[こちら](#)を参照ください）。

本委員会のワールドカフェ・樹形図部会は、今後はこの樹形図が示す日本語教育関連活動の広がり、ならびに、日本語教育に携わる者がどのような現場で、どのような問題意識をもって、どのような活動を行い、研究をしているのかを日本語教育関係者で共有し、かつ、広く一般の人々に知ってもらふ段階ではないかと考えました。そこで、これまでのワールドカフェを通して作成された樹形図を見直すことにしました。その結果、収集された個々の活動内容や課題、研究テーマの系統的収斂の可能性を探り、より見やすく、多くの人々に興味を持ってもらうこと、また、樹形図をツールとして用いてもらうことを目指し、「現段階での」樹形図（2022年度版）を作成することとなりました。「現段階での」としているのは、現在、また今後の社会の変化に即して、日本語教育実践のあり方が変容し、その結果、樹形図も変容していくことが予想されるからです。次章では、「2022年度版日本語教育の樹形図」作成の過程を説明します。

2. 「2022年度版日本語教育の樹形図」作成の過程

2.1 樹形図作成の目的と方法

「2022年度版日本語教育の樹形図」（以下「樹形図」）作成の目的は、ワールドカフェにおいて収集された記述を要約し、系統的に示すことにありました。これまで公開されてきた樹形図では（直近の公開は2021年3月）、参加者個々の研究テーマ・領域・実践的活動について、小枝や葉・花・果実と太い枝は示されていましたが、その中間となる細い枝が示されていませんでした。そのため、個々の研究テーマ・領域・実践的活動の具体的な内

内容を詳細に理解することはできても、それぞれの関係性や全体像がつかみにくく、活用が困難なものとなっていました。そこで、今後、樹形図を多くの方と共有し、活用してもらうために、これまでに樹形図に書き込んだ記述を要約し、系統的に示すこととしました。

具体的には、小枝や葉・花・果実を細い枝に束ね、それらを太い枝へと束ねる作業を行うこととしました。手順を以下の「樹形図作成の過程」に示します。

[樹形図作成の過程]

①小枝や葉・花・果実の整理

- ワールドカフェの島と太い枝との関連性の整理
- ワールドカフェの島の特徴や話題に基づいた分類

②細い枝に束ねる作業

- テキストマイニング及びクラスター分析の実施
- クラスターの解釈と命名

③太い枝に束ねる作業

- クラスターと太い枝の関連性の検討
- 樹形図への書き込み

対象とする小枝や葉・花・果実は、その大半を占める 2017 年と 2018 年のワールドカフェの記述をもとにしました。また、太い枝については、学会理念体系において例示されている以下の 6 つの項目を用いることとしました。

- A. 高等教育機関等における学術的コミュニケーション能力の育成方法
- B. 地域社会における日常生活的コミュニケーション能力育成方法
- C. キャリア形成のための高度コミュニケーション能力育成方法
- D. 日本語教育学の社会的認知や地位の向上
- E. 日本語教育学振興に関する施策の推進・拡充
- F. 日本語教育学の言語教育的・思想的・哲学的枠組みの構築

また、作業を行う際には、テキストマイニングを用いた分析を行うこととしました。テキストマイニングとは、自由記述による文書形式のデータを定量的に分析する手法の総称を指します。テキストマイニングでは、コンピュータを用いて、自由記述による文書を自動的に形態素に分割した後、クラスター分析といった多変量解析を行うことによって、全体を要約提示することができます。そのため、テキストマイニングを用いることで、ワー

ルドカフェで収集された自由記述の文書を要約したり、全体的な傾向を把握したりすることが可能となります。

2. 2 樹形図作成の過程①:小枝や葉・花・果実を整理する

テキストマイニングを用いた量的分析の前に、小枝や葉・花・果実を整理することを目的に質的分析を行いました。具体的には、ワールドカフェの島々と太い枝の6つの項目との関連性の有無について検討を行い、その後、ワールドカフェの島の話題と特徴の整理、ワールドカフェの島と文脈に基づいた分類を行いました。対象としたワールドカフェで設定された島は、以下の16の島々です。

【2017年 ワールドカフェの島】

- ①大学・大学院
- ②日本語学校・専門学校など
- ③技能実習・キャリア教育・ビジネス日本語など
- ④地域日本語教室・ボランティア・母子サポート・定住者・難民など
- ⑤年少者教育・学校教育など
- ⑥日本語教育政策など
- ⑦地域の多文化共生など ※参加者なしのため記述なし
- ⑧福祉・介護・看護など ※参加者なしのため記述なし

【2018年 ワールドカフェの島】

- ①日本語教師養成・日本語教育学研究（養成講座・大学・大学院）
- ②留学生への学術的コミュニケーションとしての日本語教育
（日本語学校・専門学校・大学など）」
- ③高度人材育成のための日本語教育
（キャリア教育、ビジネス日本語、専門日本語教育など）
- ④日本国内の多文化共生のための日本語教育
（地域日本語教室、ボランティア・母子サポート・定住者・難民など）
- ⑤海外における外国語としての日本語教育・日本研究など
- ⑥子供の日本語教育（年少者日本語教育・継承語教育、バイリンガル教育など）
※参加者不足のため⑦と統合
- ⑦日本語教育政策・移民政策・日本語教育参照基準制定（政治的・行政的な対応など）
※参加者不足のため⑥と統合
- ⑧社会基盤人材育成のための日本語教育
（福祉・介護・看護分野、技能実習など）」 ※参加者なしのため記述なし

これらの島々と太い枝の6つの項目との関連性について検討を行いました。それぞれの島の参加者の属性やそこで扱われた話題を分析したところ、ワールドカフェの島の中には、当日に参加者が集まらなかったために記述が収集できなかった島や、参加者が少なかったために2つの島を1つの島に統合したものがありました。そのため、一部の島は、樹形図の太い枝と重なりを持っていますが、それ以外の島は太い枝と完全に合致しているとは言えないことがわかりました。特に2018年のワールドカフェの島「海外における外国語としての日本語教育・日本研究」は、太い枝の何れとも合致しないものでした。また、ワールドカフェの島の中に、「D. 日本語教育学の社会的認知や地位の向上」と「F. 日本語教育学の言語教育的・思想的・哲学的枠組みの構築」に対応する島はなく、太い枝で示された6つの項目すべてに対応する島が設定されたわけではないことがわかりました。

さらに、それぞれの島の記述内容を分析したところ、島としては設定されていなかったものの、「D. 日本語教育学の社会的認知や地位の向上」または「F. 日本語教育学の言語教育的・思想的・哲学的枠組みの構築」に該当すると考えられる記述があることがわかりました。また、同様の文言の記述が複数の島で観察されることもわかりました。例えば、「コミュニケーション能力」という記述が多く島の島で観察されました。しかし、これらの記述は、どの島で収集されたのかによって、すなわち、文脈によって意味合いが異なります。例えば、「大学・大学院」という島で収集された「コミュニケーション能力」という記述と「技能実習・キャリア教育・ビジネス日本語など」という島で収集された「コミュニケーション能力」という記述とでは、その対象や行動、求められる能力に違いがあることが予想されます。そのため、それぞれの記述の意図を正確に理解し要約を行うには、各記述が、どの島で収集されたものであるのかを明確にした上で要約を行う必要があると考えました。そこで、ワールドカフェの島の属性、すなわち、記述が行われた文脈に基づいて便宜的にグループ分けを行うこととしました。具体的なグループは、以下のとおりです。

I：大学・大学院・日本語学校・専門学校など

2017年 ①大学・大学院[28項目]

②日本語学校・専門学校など[29項目]

2018年 ①日本語教師養成・日本語教育学研究（養成講座・大学・大学院）[34項目]

②留学生への学術的コミュニケーションとしての日本語教育（日本語学校・専門学校・大学など）[25項目]

II：技能実習・キャリア教育・ビジネス日本語・専門日本語教育など

2017年 ③技能実習・キャリア教育・ビジネス日本語など[24項目]

2018年 ③高度人材育成のための日本語教育（キャリア教育、ビジネス日本語、専門日本語教育など）[16項目]

Ⅲ：地域日本語教室・ボランティア・母子サポート・定住者・難民など

2017年 ④地域日本語教室・ボランティア・母子サポート・定住者・難民など[22項目]

2018年 ④日本国内の多文化共生のための日本語教育(地域日本語教室、ボランティア・母子サポート・定住者・難民など)[10項目]

Ⅳ：年少者教育・継承語教育・日本語教育政策・日本語教育参照基準制定など

2017年 ⑤年少者教育・学校教育など[7項目]

⑥日本語教育政策など[21項目]

2018年 ⑥子供の日本語教育(年少者日本語教育・継承語教育、バイリンガル教育など)と⑦日本語教育政策・移民政策・日本語教育参照基準制定(政治的・行政的な対応など)が統合された島[14項目]

Ⅴ：海外における外国語としての日本語教育・日本研究」

2018年 ⑤海外における外国語としての日本語教育・日本研究 [6項目]

上記のⅠからⅤの5つのグループは、あくまで樹形図を要約する過程において、便宜的に作成したワールドカフェの島に基づくグループであり、上記の5つのグループやグループ分けは、日本語教育の領域と対応するものではありません。

テキストマイニングを用いた分析においても、それぞれの記述の意図を正確に理解し要約を行うために、上記のワールドカフェの島の属性、すなわち、記述が行われた文脈に基づいたグループごとに分析を行うこととしました。

ただし、2018年の「海外における外国語としての日本語教育・日本研究」という島は、今回のテキストマイニングを用いた要約の対象とせず、樹形図に明記しないこととしました。「海外における外国語としての日本語教育・日本研究」という領域は、日本語教育の学術的研究・教育実践・情報交流の「包括的大項目」であり、重要な太い枝の1つです。しかし、ワールドカフェにおいては、残念ながら、1回しか扱うことができておりません。また、収集された記述は6項目であり、輪郭を樹形図に描くには記述が少ない状態にあります。その背景には、これまでのワールドカフェが支部集会等で開催されてきたということもあると考えます。今回、樹形図に組み込むことが叶いませんでしたが、今後、海外において学術的研究・教育実践に取り組む学会員との情報交流が活発に行われ、「海外における外国語としての日本語教育・日本研究」という領域についての輪郭が樹形図に描かれることが期待されます。

2.3 樹形図作成の過程②: 細かい枝に束ねる

小枝や葉・花・果実の整理を行った後、これらを要約し、細かい枝に束ねる作業を行いました。具体的には、質的分析で分類を行ったグループのⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳについて、テキス

トマイニングを用いた分析を行い、細かい枝に束ねる作業を行いました。

テキストマイニングには、KH Coder の Version 3b06 を用いました。テキストマイニングでは、分析に先立ち、グループごとにテキスト欠損値やパソコンで読み取り不可能な表記の有無の確認、誤字脱字の修正を行い、データのクリーニングを行いました。

次に、「learning」を「ラーニング」にするなど同一語についての表記のゆれを統一する作業、「力」を「能力」にするなど同義語を統一する作業を行いました。その後、KH Coder のテキストチェック及び前処理を実行しました。次に、KH Coder の抽出語リストと複合語の検出、語の取捨選択の機能を用いて、「異」「文化」のように別々に切り出されたり、「日本語」「教師」のように繋げたほうが結果の解釈がしやすくなるものについては、その語を強制的に抽出する作業を行いました。このような作業を繰り返し、分析に適したデータに整えた後、文書のクラスター分析を行いました。

文書のクラスター分析は、類似性が高いものを結合し最終的に1つにする階層的クラスター分析を採用しました。そのため、KH Coder では方法を Ward 法、距離を Jaccard に設定しました。また、ワールドカフェで収集されたすべての記述を対象として分析を行うために、出現数による語の取捨選択、文書数による語の取捨選択の設定では、何れも最小を1回に設定しました。

その結果、「I：大学・大学院・日本語学校・専門学校など」については、2つ以上の文書から構成されるクラスターが26個、1つの文書から構成されるクラスターが25個、確認されました。「II：技能実習・キャリア教育・ビジネス日本語・専門日本語教育など」については、2つ以上の文書から構成されるクラスターが10個、1つの文書から構成されるクラスターが15個、確認されました。「III：地域日本語教室・ボランティア・母子サポート・定住者・難民など」については、2つ以上の文書から構成されるクラスターが8個、1つの文書から構成されるクラスターが14個、確認されました。「IV：年少者教育・継承語教育・日本語教育政策・日本語教育参照基準制定など」については、2つ以上の文書から構成されるクラスターが6個、1つの文書から構成されるクラスターが17個、確認されました。

これらのクラスター分析によって得られたクラスターのうち、2つ以上の文書からなるクラスターについて、クラスターに含まれる文書や文書を構成する形態素を基にクラスターの解釈、命名を行いました。クラスターの解釈、命名は、本部会の構成員による協議によって決定しました。その他の1つの文書から構成されるクラスターについては、特徴的なものだけを取り上げて、解釈を行いました。これらのクラスターは、他のクラスターとの独立性が高い文書であり、有益な記述として位置付けることができます。しかし、今回の樹形図作成の目的は要約であることから、1つの文書から構成されるクラスターのすべてを扱うことはせず、中でも当該の島の特徴を反映し、尚且つ、他の記述との独立性が高い特徴的なものだけを取り上げて解釈を行うこととしました。

2.4 樹形図作成の過程③:太い枝に束ねる

最後に、細い枝を太い枝に束ねる作業を行いました。まず、I、II、III、IVの各グループで得られたクラスターのうち2つ以上の文書で構成されるクラスターについて、太い枝の6つの項目の何れに関するクラスターであるのかについて解釈を行いました。これらの解釈は、グループの属性、すなわち文脈と、各クラスターに含まれる文書と文書を構成する形態素が示す特徴を基に行いました。次に、1つの文書から構成されるクラスターの中でも特徴的なものだけを取り上げ、同様に6つの項目との関連性についての解釈を行いました。本部会の構成員による協議の結果、それぞれ以下のように分類されました。

「I：大学・大学院・日本語学校・専門学校など」については、2つ以上の文書から構成される26個のクラスターのうち、12個のクラスターを「A.高等教育機関等における学術的コミュニケーション能力の育成方法」に関するものとして解釈し、5個のクラスターを「D.日本語教育学の社会的認知や地位の向上」に関するもの、9個のクラスターを「F.日本語教育学の言語教育的・思想的・哲学的枠組みの構築」に関するものとして解釈しました。また、1つの文書から構成されるクラスターについては、2個のクラスターを取り上げ、それらを「A.高等教育機関等における学術的コミュニケーション能力の育成方法」に関するものとして解釈しました。

「II：技能実習・キャリア教育・ビジネス日本語・専門日本語教育など」については、2つ以上の文書から構成される10個のクラスターのうち、8個のクラスターを「C.キャリア形成のための高度コミュニケーション能力育成方法」に関するものとして解釈し、2個のクラスターを「F.日本語教育学の言語教育的・思想的・哲学的枠組みの構築」に関するものとして解釈しました。また、1つの文書から構成されるクラスターについては、3個のクラスターを取り上げ、それらを「C.キャリア形成のための高度コミュニケーション能力育成方法」に関するものとして解釈しました。

「III：地域日本語教室・ボランティア・母子サポート・定住者・難民など」については、2つ以上の文書から構成される8個のクラスターのうち、7個のクラスターを「B.地域社会における日常生活的コミュニケーション能力育成方法」に関するものとして解釈し、1個のクラスターを「D.日本語教育学の社会的認知や地位の向上」に関するものとして解釈しました。また、1つの文書から構成されるクラスターについては、3個のクラスターを取り上げ、それらを「B.地域社会における日常生活的コミュニケーション能力育成方法」に関するものとして解釈しました。

「IV：年少者教育・継承語教育・日本語教育政策・日本語教育参照基準制定など」については、2つ以上の文書から構成される6個のクラスターのうち、3個のクラスターを「B.地域社会における日常生活的コミュニケーション能力育成方法」に関するものとして解釈し、2個のクラスターを「E.日本語教育學術振興に関する施策の推進・拡充」に関するもの、1個のクラスターを「F.日本語教育学の言語教育的・思想的・哲学的枠組みの構築」に関するものとして解釈しました。1つの文書から構成されるクラスターについては、3

個のクラスターを取り上げ、そのうちの 2 個を「E. 日本語教育学術振興に関する施策の推進・拡充」に関するものとして解釈し、1 個を「B. 地域社会における日常生活的コミュニケーション能力育成方法」に関するものとして解釈しました。

これらの各グループのクラスターと解釈の詳細は、「[3. 1 細い枝と小枝・葉・花・果実のリスト](#)」に記載しています。そして、これらの結果を樹形図に落とし込んだものが、今回作成した「2022 年度版日本語教育の樹形図」です(全体像は[こちら](#)をご参照ください)。今回の樹形図作成の目的は要約であるため、すべてのクラスターを樹形図に書き込むことはせず、特徴的なクラスターを選んで記載することとしました。また、1つの文書から構成されるクラスターについても、その多くは樹形図に書き込みませんでした。これらの1つの文書から構成されるクラスターの詳細は、「[3. 2 その他の小枝・葉・花・果実](#)」に記載しています。しかし、これらのクラスターは、他のクラスターとの独立性が高く、日本語教育の学術的研究・教育実践の領域の裾野の広さや多様性を窺わせる貴重な資料です。

日本語教育の 樹形図

〈小枝や葉・花・果実〉

研究・実践領域の「小項目」
個々の個別的研究や
それらの複合的共同研究などの内容

多様性への対応

学習者とそのニーズ及び学び

言語保障

教授法

多様な目的・習熟度の学生

地域ボランティア日本語教室

カリキュラム

アカデミックスキルの育成

看護師・介護福祉士

日本語学校との連携

B. 地域社会における
日常生活的コミュニケーション能力
育成方法

〈細い枝〉

研究・実践領域の「中項目」

異なる日本語教育機関

A. 高等教育機関等における
学術的コミュニケーション能力
育成方法

実習生

ビジネス日本語

位置づけ・認知度

職業としての安定性・魅力

C. キャリア形成のための
高度コミュニケーション能力
育成方法

外国人雇用への理解

日本語教育実習

日本語教育マネジメント

D. 日本語教育学の
社会的認知や地位の向上

〈太い枝〉A~F

研究・実践・情報交流の
「包括的大項目」

業界の活性化

日本語教師養成

教室活動の方法

協働学習

E. 日本語教育学術振興に関する
施策の推進・拡充

多様化する社会課題・
長期的政策の必要性

モチベーション

F. 日本語教育学の
言語教育的・思想的・
哲学的枠組みの構築

個人の言語・文化の尊重

世界の平和と人々の幸福

共生

異文化理解

〈太い幹〉

日本語教育学を媒介した相互理解と
共感を拓く地平に立つ三本の柱
日本語教育学の研究・実践領域を束ねる

情報交流

教育実践

学術研究

ICT・技術系学会

ことばと共生

歴史文化系学会

ことばと言語

NPO・企業・自治体・官公庁・各種団体

ことばと教育

言語系学会

ことばと社会

教育系学会

ことばと心理

ことばと文化

社会科学系学会

哲学思想系学会

〈大地に大きく張った根〉

日本語教育学と各学問領域や
社会を豊かな土壌として
そこから課題や知見を吸収する

太い枝A~Fの項目名をクリックすると、
それぞれの「細い枝と小枝・葉・花・果実のリスト」をご覧ください。

3. 1 細い枝と小枝・葉・花・果実のリスト ※表中のⅠ～Ⅴは、ワールドカフェの島に基づいたグループの番号を示す。

太い枝	細い枝	小枝・葉・花・果実
A. 高等教育機関等における学術的コミュニケーション能力育成方法	日本語教育機関に在籍する多様な目的・習熟度の学生に対する日本語教育（Ⅰ）	大学でドロップアウトした学生への対処方法
		日本人学生と留学生との共修授業
		一つのクラスにレベルの違う学生がいる（履修していない学生の方がスタート時の日本語能力が低い）
		工学系の学生を日本に留学させるのに必要な日本語能力とは何
		留学生の多様化（アルバイト第一の学生）
		学生のアルバイト（授業に集中できない）
		教授内容と学生のレベル差
		精神的不安定な学生の増加
		ボランティアと学生
		学生の発音矯正
	日本語教育機関で教育すべき内容（日本語以外も含まれる）（Ⅰ）	留学生に何を教えたらいいのか
		日本語を通じて教えたこと（日本語自体ではない）
		何を教える場所なのか
	大学院留学生に対する研究指導（Ⅰ）	オノマトペ研究
		聴解ストラテジー研究
		スムーズな研究指導
		指導方法の研究（他国で）
		研究の仕方を教える体制作り
		大学院の留学生がどのように研究テーマを見つけていったらいいのか
	どのようなコミュニケーション能力を育成すべきか（Ⅰ）	雑談力
		コミュニケーション能力
	異なる日本語教育機関間、地域、異分野との連携（Ⅰ）	予備教育との連携（アーティキュレーション）
		初年次教育と日本語の授業の連携
		地域との連携
		他分野との連携
	多文化社会における異文化適応力（Ⅰ）	多文化社会では「日本人はふつう」は通じない
		外の社会との関わりが少ない
		社会的位置
地域社会の受け入れ体制		

	多様な職場に即した就労のための日本語指導（Ⅰ）	職業別日本語とビジネス日本語の区別
		現場にあったビジネス日本語
		教材と現場のギャップ(設備)
		介護現場での外国人
	学習者個人に適した学習ストラテジー使用（Ⅰ）	学習ストラテジー
		学習ストラテジーの個人差
	日本語学校と他機関との連携（Ⅰ）	日本語学校は壁か
		進学先と日本語学校との溝が深い
	カリキュラムの見直し（Ⅰ）	カリキュラムの再考
		非漢字圏増加に伴うカリキュラムの見直し
アカデミックスキルの育成（Ⅰ）	アカデミックジャパニーズをキャリア形成に	
	アカデミックライティング	
人材・支援の不足（Ⅰ）	人材不足	
	支援の不足	
	教師不足（留学生の増加）	
日本語教員の学びの機会（Ⅰ）	先生にとっての学びの場	
日本語教育機関における評価の方法（Ⅰ）	評価方法	

太い枝	細い枝	小枝・葉・花・果実
B. 地域社会における日常生活的コミュニケーション能力育成方法	地域ボランティア日本語教室とその役割 (Ⅲ)	日本語教室の横のつながり
		日本語教室の改善・評価
		居場所作りとしての地域日本語教室
	留学生とその家族の生活日本語 (Ⅲ)	留学生の生活に必要な日本語
		留学生の家族の日本語
	学習者とそのニーズ及び学び (Ⅲ)	学習ニーズの不一致 (学習者 vs 学校)
		学習者の主体性 (学びとは何か?)
		学習者論
	地域日本語教室における教授法 (Ⅲ)	アクティブラーニング
		e-ラーニング
	ボランティア日本語教師及び専門日本語教師 (Ⅲ)	ボランティアと専門家との協働
		ボランティア教師は専門職か?
	コミュニケーション・ストラテジー及び能力の育成 (Ⅲ)	コミュニケーションの方略的能力を伸ばすとは
		現場でのコミュニケーション
	多様性への対応 (Ⅲ)	国内の多様性 (言語、国籍、価値観)
		社会の価値観の変化に対応できない
	短期留学生のための集中日本語コース (Ⅳ)	短期留学生のための短期集中コース
		学部留学生の日本語会話補習
		短期交換留学生の日本語教育
	地域に住む外国人と日本人との伝え合いの必要性 (Ⅳ)	地域の日本語教育は地域に住む日本人の理解こそもっとも難しい
地域に住む外国人と日本人が生活に必要なことを伝え合う		
日本語の必要性		
哲学的議論の必要性		
EPA 看護師・介護福祉士の家族への援助 (Ⅳ)	EPA (介護)	
	EPA の家族	
異文化間コミュニケーション能力を測る基準 (Ⅲ)	異文化言語能力を測る基準	
言語保障 (Ⅲ)	言語保障	
多人数教室での創造的活動 (Ⅲ)	多人数教室での創造的活動	
海外に在留する児童生徒への教科書の無償給与 (Ⅳ)	日本人学校の教科書無料	

太い枝	細い枝	小枝・葉・花・果実
C. キャリア形成のための高度コミュニケーション能力育成方法	外国人への教育及び外国人雇用への理解（Ⅱ）	在日外国人への教育（異文化）（偏見）
		日本人の学習
		日本人の外国人雇用についての理解
	職場での異文化理解（Ⅱ）	文化の問題か個の問題か
		職場内での異文化コミュニケーション
	ビジネス日本語とその応用（Ⅱ）	少数派ビジネス日本語
		仕事上の日本語との関連
		ビジネスプランとその確認
		ビジネス日本語と JOP（職業目的の日本語）との関連
	諸分野における研究と実践（Ⅱ）	研究と実践のインターフェイス
		聴解ストラテジー研究
		スムーズな研究指導
	会話を中心としたコミュニケーション能力（Ⅱ）	会話能力
		コミュニケーション能力
	発音指導及び学習（Ⅱ）	初級レベルでもっと発音を
		発音
	日本語教育マネジメントの実施と共有（Ⅱ）	プログラムマネジメント
		教務の仕事の共有
		日本語教育マネジメントの共有
実習生の受け入れと対応（Ⅱ）	実習生の世話係	
	上司の期待と実習生の生き方	
ブリッジ人材（Ⅱ）	ブリッジ人材	
上達を必要としない学習者（Ⅱ）	上達を必ずしも求めない学習者	
日本で仕事をするものの意味（Ⅱ）	日本で仕事をするものの意味を伝える	

太い枝	細い枝	小枝・葉・花・果実
D. 日本語教育学の社会的認知や地位の向上	日本語教員養成課程における受講生の多様化と日本語教育学を学ぶ意義 (I)	養成課程を修了しても日本語教師にならない理由
		日本語教師の専門性(検定合格すればOKか) (養成講座終わればOKか)
		日本語教師養成課程での留学生の増加
	日本語教員の役割の変化と教員養成・研修 (I)	教師の役割
		教師の役割のボーダーレス化
		日本語教師にならない学生相手の教師養成
		教師養成
		地方での教師養成研修
		教師養成における留学生参加の意義
	日本語教育実習のあり方や方法 (I)	学生が少ない(教師が余っている)
		実践的な教育実習の可能性(留学生の参加の有無)
		教育実習の必修化
	日本語教師の職業としての安定性・魅力 (I)	教育実習の方法
		職業としての安定性(給与水準)
	日本語教育の位置づけ・認知度 (I)	職業としての魅力
		大学教育の中での日本語教育の位置づけ(教師研修の位置づけ)
		日本語教育を知ってもらうこと(教師になること)
		国内の日本語教育がボランティア頼みでいいのか
		海外での日本語教育の認知度・知名度の低さ
	日本語教師養成とその課題 (III)	日本語教育マネジメントの共有
		教務の仕事の共有
教師養成		
日本語教師養成の課題(キャリア形成の問題)(離職率)		

太い枝	細い枝	葉・花・果実
E. 日本語教育 学術振興に関する 施策の推進・ 拡充	多様化する社会課題に対する長期的政策の必要性 (IV)	社会認知と政策
		母語と継承語の政策上の区別
		多様化が社会を豊かにするのか
		政策は社会寄り
		長期的政策がない
	個人の言語・文化を尊重した日本語教育 (IV)	親と子供のためのバイリンガル教育
		個人を尊重しつつの教育・研究
		個人と母文化とのつながりの保持？
		個人を守る対応が可能な状況をつくる
		言語資産か個人の権利か
	業界の活性化とは (IV)	業界の活性化とは
	日本語教師としての専門性 (IV)	日本語教師としての専門性

太い枝	細い枝	小枝・葉・花・果実
F. 日本語教育学の言語教育的・思想的・哲学的枠組みの構築	学習者間、学習者と教員間、教員間の協働学習と協働 (I)	協働
		専門教育との協働
		異分野との協働
		協働学習
		協働学習になじめない
	異文化理解・相互理解 (I)	異文化理解
		相互理解
		異文化間コミュニケーション
	教室内の支援・活動の方法 (I)	授業への能動的関わりでの触発方法
		大人数クラスでの創造的活動
		授業外での活動
		週1コマの授業の役割は
	教育手法(アクティブラーニング・Eラーニング)(I)	eラーニング
		アクティブラーニング
	モチベーションアップ・維持 (I)	モチベーションアップの方法
		学習者のモチベーションの維持
	多様な学習者・学習目的 (I)	学習目的の異なる学生の混在
		様々な職のための日本語学習
		日本語学習に力が入らない(日本を使わなくても生きていける)
	学習者に対するサポート (I)	長期滞在者のサポート
		サポートの難しさ
	自律学習 (I)	JFL環境における自律学習支援(ベトナム)
		自律学習
	教室手法、教育環境の意義 (I)	教科書を読ませることによってどのような意義があるのか
		日本人・留学生混合クラスの意義
	異文化理解と共生 (II)	異文化理解
		相互理解
	異分野との協働 (II)	協働
		異分野との協働
	日本語教育によって、世界の平和と人々の幸福に貢献する (IV)	日本語教育学とは
		日本語教育が世界平和にどう貢献できるか
		来た人の幸福につながる日本語教育とは
日本語教育は不採算部門か		
日本語教育の将来		
	日本語教育の境界設定が困難	

3.2 その他の小枝・葉・花・果実

ワールドカフェの島に基づいたグループ	小枝・葉・花・果実
I：大学・大学院・日本語学校・専門学校など	インターンシップのあり方(通訳としての役割)
	教務事務のインターンシップとしての受け入れ
	ファイラー
	言語環境による・・・(卒論)
	各国の言語政策
	日本語教師のワークライフバランス (自宅で授業準備・家事・育児の両立)
	新人研修の改善
	地域ボランティア教室支援者のビリーフ
	初級・中級学習者へのリテラシー教育 (異文化リテラシー)
	中級の壁
	寝ている学生にはどうしたらいいのか
	最終目標をどこにおくのか
	プログラムマネジメント
	年少者教育
	専門別コンテンツ
	4 技能は幻想
	待遇の問題
	低学力化
	会話教育
	母国での基礎教育の差の克服
	ブラッシュアップの必要性
	語学学校の質
	教室での母語使用
ディスレクシア	
II：技能実習・キャリア教育・ビジネス日本語・ 専門日本語教育など	現場
	数値化
	海外語学講師のレベルアップ
	速度
	評価
	モノサシ
	スピードアップを考えたシラバス
	アカデミックライティング
	外国人のインターンシップ参加の可能性
	4 技能は幻想

	教師養成の視野の狭さ
	就職活動支援（エントリーシート、自己分析）
Ⅲ：地域日本語教室・ボランティア・ 母子サポート・定住者・難民など	コミュニケーション能力
	日本人との共生
	教室と教室外学習のつながり
	小学校短期間での移動
	自治体・国による体制整備
	教材と設備のギャップ
	サマープログラムの中の日本語教育プログラム
	ボランティアの知識レベルとは
	日本についての興味の有無
	語学で何を教えるのか
	自律的学習支援
Ⅳ：年少者教育・継承語教育・日本語教育政策・ 日本語教育参照基準制定など	4週間の短期日本語プログラム(授業・カリキュラム)
	友達・仕事・家がある外国人は日本語を学びたがっているか分からない
	N1 対策
	日本語補助動詞の研究
	アカデミックディスコースへの参入の手助け
	スタンダードにはまらないがどういう立ち位置
	過去を含むパースペクティブで未来を
	誰にとっての利益か
	オーストラリア学校経営
	外国にルーツを持つ人の増加
	人はなぜ働くのか
	二項対立を超える
	コミュニケーション能力の育成
	南米日系社会
Ⅴ：海外における外国語としての日本語教育・日本 研究など	コミュニケーション能力の育成
	日本語を話すチャンス
	会話能力不足
	授業内容がコミュニケーション力につながらない
	文法知識重視とコミュニケーション力重視の齟齬（中国政府の方針と現場の課題）
	動機付け(日本で就職?)(学生のキャリア?)(目標?)

4. 「2022年度版日本語教育の樹形図」の活用アイデア

樹形図を日本語教育関連の活動に携わる実践者、研究者と共有することには、次のような意義があると考えます。学会員・日本語教育関係者間で幅広い研究テーマ、課題、活動領域を共有することで、自己の関心や研究テーマと他領域との関連性・親近性と位置づけを認識することができます。そして、自身が学術的研究や教育実践をなぜ行うのかを考えたり、他領域との関連性を考えることで、さらなる課題の発見や解決、研究の発展につなげていくことができるのではないのでしょうか。

また、実践者が、どのような場でどのような活動を行っているのか、そして、その場ではどのような課題があり、その課題をどのように解決していくべきかを、広く社会の人々に知ってもらうのに役立つのではないのでしょうか。日本語教育関係者が経験してきたことを多くの人に知ってもらうことは、急速にグローバル化が進む社会において重要なことだと言えます。例えば、将来の職業として、日本語教師を選択肢の一つとして考えている若者や日本語教師への転職を考える人々に日本語教育関係者が活動する多岐にわたる現場を知ってもらうことができます。また、地域や職場で外国人と日本語でコミュニケーションを行っている人々にも日本語教育関係者の実践現場やそこで課題となっていることを知ってもらい、課題解決について考えるきっかけとすることができるかもしれません。

「2022年度版日本語教育の樹形図」の公開には、以上のような意義があると考えますが、以下に、より具体的な活用アイデアを挙げます。

① ワークショップ等のツールとして活用

ワークショップ参加者一人ひとりが思い描いている「テーマ」や「課題」や「領域」など多種多様・多彩な考え方・実践のあり方に触れつつ、お互いの考え方や実践活動相互の関連性・親近性の網の目状の広がりを考えるためのブレインストーミングのツールとして活用することができます。例えば、自己の実践や研究について他の参加者と話しながら、付箋にキーワードを書き、それを樹形図の中に位置づけていきます。自己の実践・研究の日本語教育の中での位置づけや意義を他者との対話を通して再考することで、新たな気づきや視点を得て、自己の実践・研究をよりよいものに発展させることができるでしょう。さらに、このようなワークショップは、実践者・研究者が新たな課題や研究の芽の発見につながる可能性もあるでしょう。

② 学部生・大学院生が研究テーマを考えるためのツールとして活用

日本語教育関連で研究活動を始めようとしている大学学部生や大学院生が、日本語教育実践が行われている現場や関連領域を幅広く知ることによって、より広い視野を持って研究テーマを考えるのに活用することができます。例えば、大学の学部や大学院のゼミナール等において、樹形図を提示し、研究テーマのブレインストーミングに活用したり、絞り込みをしたりすることができるでしょう。自己の関心が樹形図のどこに位置づけられるのかを知

り、現場における実践者や研究者の幅広い視点に触れることができます。これによって、日本語教育実践の経験がない、あるいは浅い学部生、大学院生も、現場の視点を持って、研究テーマやその意義を考えることができるでしょう。

③ 日本語教育を紹介するためのツールとして活用

日本語教育について詳しくない人たちに紹介するためのツールとして活用することができます。日本語教育にはどのような実践現場があるのか、何が日本語教育に含まれるのか、そして、それらの現場で実践を行う者の関心事や問題意識にはどのようなものがあるのか、日本語教育の分野ではどのような研究がなされているのかといったことを知ってもらい、理解をしてもらいます。紹介のみでなく、細い枝と葉・花・果実のリストを見ることで、具体的な事柄をイメージすることができるでしょう。例えば、日本語教育の主専攻や副専攻を持つ大学や大学院、日本語教育養成講座を開講する専門学校の進学説明会等で、日本語教育人材となることを将来の選択肢として考えている人に、日本語教育人材の幅広い活躍の場を示すことができます。

④ 他分野の実践者・研究者が日本語教育との関連を考えるためのツールとして活用

文学、法学、社会学等、他分野の研究者が自己の専門分野と日本語教育の接点を考えるためのツールとして活用することができます。例えば、日本語教育に関心、あるいは接点を持つ他分野の研究者が、樹形図全体を眺めることで、自己の専門分野と関連がありそうな箇所を見つけることが可能となります。他分野のワークショップ等で、日本語教育との接点を考えるためのツールとしての使用も可能です。細い枝と葉・花・果実のリストは、より具体的な理解の助けとなります。これらを通し、日本語教育への認知度が高まることが期待できます。

⑤ ボランティア教室での学習目的等を確認するためのツールとして活用

ボランティア教室の教員や参加者が、自分たちが必要とする知識やスキル、学習の目的などを確認するツールとして活用することができます。例えば、授業の際に教員と参加者が樹形図全体の内容を見て、この教室で行っている活動は樹のどの部分にあたるのかを考え、話し合いをします。これにより、教員や参加者は自分たちの活動の現在の位置づけと今後の目標を明確に認識できるようになるでしょう。また、樹形図の細い枝と葉・花・果実のリストを見ることで、具体的な教授法、学習法等について幅広い知識を得ることが可能になります。

以上に「2022年度版日本語教育の樹形図」の活用アイデアを5つ挙げました。

本稿では、「2022年度版日本語教育の樹形図」を提示し、その作成意図、作成方法、活用アイデアを説明しました。この樹形図を理解いただき、広く活用していただければ幸いです。

です。日本語教育の樹は、社会の変化や日本語教育学の進展に応じて、その枝を成長させ、葉を茂らせ、花を咲かせ、果実を実らせ、今も絶え間なく変化し続けています。この樹形図が、日本語教育実践者・研究者一人ひとりの日々の実践と研究によって、大地に大きく根を張り、より太く、より高く成長していくことを願っています。

樹形図

小枝や葉・花・果実

研究・実践領域の「小項目」

細い枝

研究・実践領域の「中項目」

太い枝

研究・実践・情報交流の「包括的大項目」

★ 個別の項目・事項・課題などの冒頭の番号①②・・・は、第1回カフェで訪れた8つの「国」の日本語教育関連領域を表します。

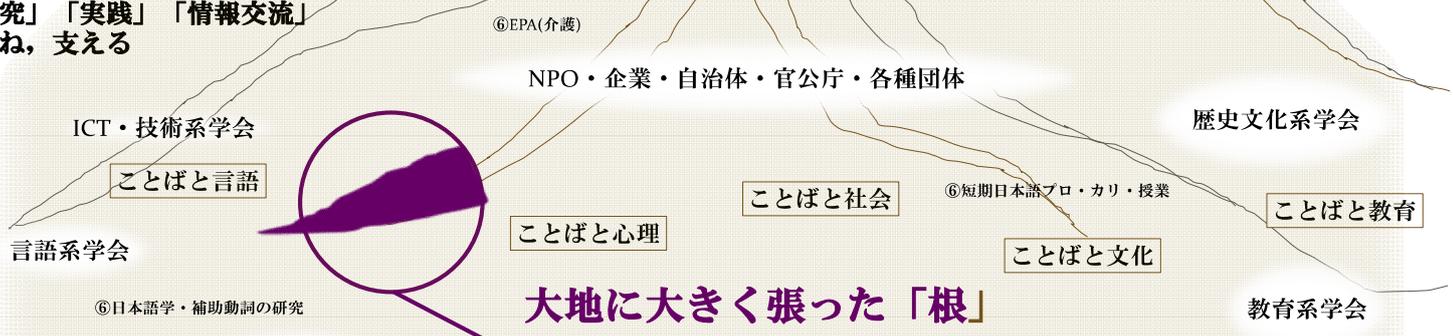
- ① 大学・大学院
- ② 日本語学校・専門学校など
- ③ 福祉・介護・看護など
- ④ 技能実習・キャリア教育・ビジネス日本語など
- ⑤ 地域日本語教育・ボランティア・母子サポート・定住者・難民など
- ⑥ 年少者教育・学校教育など
- ⑦ 地域の多文化共生など
- ⑧ 日本語教育政策など

太い幹

日本語教育学の三本の柱「研究」「実践」「情報交流」を束ね、支える

情報交流
教育実践
学術研究

ことばと共生



大地に大きく張った「根」

日本語教育学と各学問領域や社会を豊かな土壌としてそこから課題や知見を吸収する

編集

公益社団法人日本語教育学会 調査研究推進委員会

執筆者

公益社団法人日本語教育学会 調査研究推進委員会 ワールドカフェ・樹形図部会 部会員
飯嶋美知子、加藤恵梨、佐藤智照、ディヌーシャ ランブクピティヤ、宮崎七湖

(50音順)

イラストデザイン

studio. 美南

ワールドカフェの開催と「2022年度版日本語教育の樹形図」作成について
—ツールとしての活用に向けて—

発行日：2022年12月25日

発行者：公益社団法人日本語教育学会

編集：公益社団法人日本語教育学会 調査研究推進委員会